

総合管理部門研修会「染色体・遺伝子検査を基本から学ぼう」

開催日：平成 27 年 7 月 20 日（月）

会場：エルソーラ仙台大研修室（アエル 28F）

参加内訳：会員 30 名 賛助会員 5 名 非会員 1 名 実務委員 3 名 講師 2 名

内容

染色体検査編

株式会社日本遺伝子研究所 検査事業部 島田 裕充 先生

染色体分析の意義から始まり、各臨床の分野での染色体分析、検体種別による検査法の違い、染色体検査・FISH の結果報告までのフロー、培養、ハーベストの工程についてお話いただいた。染色体のスライドにより、正常、数的異常、転座 逆位を説明いただいた。更に、22q11.2 欠失症候群（CATCH22）、ETO/AML1、BCR/ABL 等の FISH 画像の紹介、ヒト核型の一般的原則の参考資料として ISCN2013 の紹介もあった。染色体検査を実施している臨床検査技師が核型の分類を行うのに 3 年から 5 年かかる点や、分類判断がむずかしい事例では、数名の技師で話し合うこともあるということで、染色体分析の奥の深さを改めて知ることができた。

遺伝子検査の基礎

ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社

サイエンティフィックソリューション部門 遺伝子・病理部 学術推進グループ  
片山 知秀 先生

まず遺伝子検査の歴史、DNA の構造、融解と再会合についての説明があった。遺伝子検査・診断でわかることは、①病原体遺伝子検査、②ヒト体細胞遺伝子検査 ③ヒト遺伝学的検査 の 3 つに分類できる。遺伝子検査における検体の種類として、結核菌群検査における喀痰、固形腫瘍の遺伝子検査における FFPE 切片について説明があった。PCR とリアルタイム PCR の違いを、アニメーションを使用しながら、わかりやすく解説いただいた。遺伝子異常（変異型）の検出方法についてもお話があり、陽性、陰性及び内部コントロールの目的、偽陽性、偽陰性を防止する方法など大変勉強になった。

これまで、染色体、遺伝子関連の研修会を毎年 1 回程度実施してきたが、今年度から、総合管理部門の基礎課程として実施し、シリーズ化して開催する予定である。3 連休最後の日の開催であったが、参加者は 40 名に達し、約 18 施設からの参加であった。会員の染色体・遺伝子検査への関心の深さを示すものと考え、今後の研修会の企画を考えていきたい。

文責 学術部総合管理部門長 氏家 和明